

歴史と文化

鉄造菩薩頭(東京都指定文化財)

📍日本橋人形町1-18-9 大観音寺



大観音寺の本尊である菩薩頭は鎌倉時代に制作された鑄鉄製の仏頭(高さ170センチ・幅54センチ)です。鎌倉時代に被災した鎌倉・新清水寺の菩薩像であったといわれ、後に掘り出された仏頭を明治9年(1876)から安置しています。本尊のご開帳は、毎月11日と17日です。

日本銀行創業の地

📍日本橋箱崎町19先



明治15年(1882)制定の日本銀行条例に基づいて、同年10月に日本銀行が業務を開始した場所です。旧永代橋のたもとにあったレンガ造2階建ての北海道開拓使物産売捌所(設計者はジョサイア・コンドル)を使用し、明治29年(1896)に現在地へ移転するまで業務が行われました。

小網神社社殿・神楽殿(中央区民文化財)

📍日本橋小網町16-23



小網神社の社殿と神楽殿は、関東大震災後の昭和4年(1929)に再建された木造の神社建築です。伝統的な意匠を継承した社殿には、向拝部分に龍・獅子・ばく・鳳凰・波などの優れた彫刻が施されています。境内地の区画にあわせて五角形の平面を持つ神楽殿の造りも珍しいものです。

震災避難記念碑

📍日本橋浜町2-57先



関東大震災の発生時に新大橋へ避難した多くの人命が救われたことを記念し、昭和8年(1933)に石碑が建立されました。震災で多くの橋が被害を受ける中、明治45年(1912)竣工の鉄骨トラス橋・新大橋(昭和期に改架)は、落橋や火災から人々を守り、「人助け橋」と称えられました。

文化財 記念碑

清洲橋(国指定重要文化財)

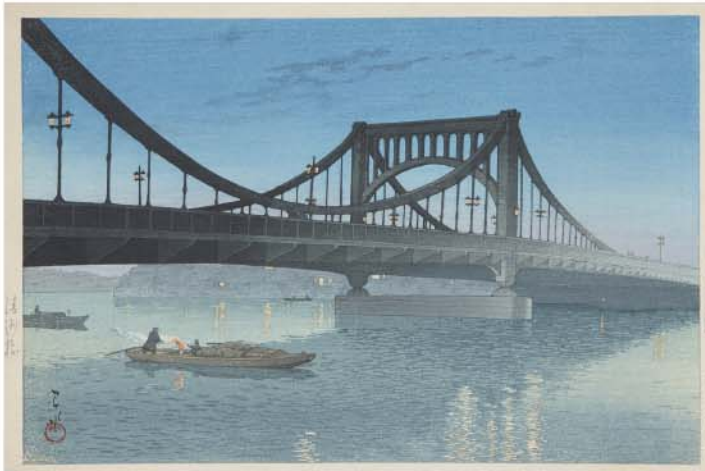
📍日本橋中洲～江東区清澄1



昭和3年(1928)に架橋された清洲橋は、関東大震災後の復興事業で竣工した代表的な橋梁の一つです。この橋梁の名は、架橋当時にあった隅田川東岸の深川区清住町と西岸の日本橋区中洲町を結んだことから、両町名の一字をとって「清洲橋」と命名されました。ドイツのライン川に架かっていた吊橋(戦禍で滅失)を参考に設計したといわれ、曲線的で優美な外観から「女性的な橋」として形容されています。

歴史「モノ」がたり

清洲橋 昭和6年(1931) 川瀬巴水/画



近代橋梁を代表する美しい形態の清洲橋が、暮れなずむ隅田川の風景の中に優しく溶け込んでいるような版画です。作者の川瀬巴水は、特徴的な三径間の吊橋を上品で流れるような曲線で強調し、この橋梁の持つ構造・構成・装飾の美しさを見事に描き出しています。日が沈み静寂に包まれる夕刻の中、川面に揺らぐ明かりの波紋が広がり、ゆったりと舟を漕ぐ櫓の音が聞こえてくるような情趣に富んだ作品です。

収蔵品アーカイブズ

<http://www.chuo-museum.jp>